

「主よ。お話しください」
サムエルの生涯Ⅱ「預言者へ」
サムエル記第一 2章～3章

はじめに

今日は「母の日」です。母が健在の人も、亡くした人も、今日は母のことに思いを寄せ、感謝の気持ちを新たにしましょう。

今朝は、サムエルの生涯の2回目です。前は「母ハンナの祈り」でした。ハンナの祈りによって、主はサムエルをお与えになりました。ハンナは、乳離するまで、サムエルを自分のところで育てましたが、祭司エリに約束した通り、主にささげました。

1 祭司エリの子 (2:12-25)。

2章の12節から25節に、祭司エリの子たちの話が出てきます。それは、なぜ、主がサムエルをお立てになったかの理由になっています。

(1) 祭司エリの子たちは、よこしまな者で、主を知らず、民にかかわる祭司の定めについてもそうであった (12-13)。

祭司といえば、今の牧師よりもはるかに地位も名誉も高い者でしたが、その子たちが、「主を知らず、祭司の務めも知らなかった」のです。

彼らの罪は、貪欲 (14)、自分優先 (16)、力づく (16)、不品行 (22)、父の警告を聞かないなどです。

どうしてこのような者になってしまったのでしょうか。エリ家の祈りと教育に問題があったのではないのでしょうか。

(2) エリ家の断罪 (27-36)

エリは、神様よりも息子たちを重んじていました。それゆえ、主は「わたしは、わたしの心と思いの中で事を行う忠実な祭司を、わたしのために起こそう」と言われたのです (35)。

2 サムエルはますます成長し、主にも、人にも愛された (26)。

エリの子たちと対照的なのが、サムエルです。

(1) 幼子は、祭司エリのもとで主に仕えていた (11)。

サムエルは幼子にもかかわらず、主に仕えていました。エリはそれなりの務めを与えていたと思われるます(18)。「亜麻布のエポデを身にまとい」とありますが、エポデは祭司が身に付けるもので、エリはサムエルにそれを着せて自覚を持たせたのでしょう。母ハンナは、サムエルのために上着を作り、毎年届けていました(19)。

(2) ハンナへの祝福(21)。

子どもを主にささげたエルカナ夫妻を、エリは、子どもが与えられるように、祝福しました。その結果、ハンナには、3人の息子と2人の娘が与えられました。

(3) サムエルは、主にも、人にも愛された(26)。

主に愛されるとは、どういうことでしょうか。主は、人を愛しておられます。それなのに、「主に愛された」と、特別に言われるのは、サムエルがいつも主に喜ばれることを心がけていたのでしょう。

そして、「人にも愛された」のです。人のいやがるようなことはせず、人に喜ばれる事を心がけました。同じ表現がイエス様にも使われています(ルカ2:52)

3 主の預言者に任じられるサムエル(3:20)

(1) 主のみことばを聞く(3:1-10)。

主が直接、サムエルをお呼びになりました。サムエルは、エリが呼んでいると思い、3度エリの所に行きました。3度目にエリは、呼んでおられるのは、主だと悟ります。そしてサムエルに、今度呼ばれたら、「主よ。お話してください。しもべは聞いております」と申し上げなさいと言いました。サムエルが言われたようにすると、主はサムエルにエリの家に対する裁きを伝えたのです。

(2) 主は彼とともにおられ、彼のことばを一つも地に落とされなかった(19)。

サムエルの語ることばは、ことごとく成就したので、イスラエルの人々は、サムエルが主の預言者として任じられたことを知ったのです。

結論

2章から3章にかけては、エリの子たちとサムエルを対照させて、サムエルを際立たせています。主を知らず、祭司の務めにも無関心なエリの子と、幼子でありながら主に仕えたサムエル。初めから祈りによって育てたハンナと、主よりも子どもたちを重んじたエリ。親の教育の違いでしょうか。

このようにして、母ハンナの祈りによって与えられたサムエルは、幼い頃から主に仕える者となり、預言者に任命されました。

今日は「母の日」ですが、祈りの大切さ、子供をどのような者として育てようとするかなど、ハンナとサムエルから学び取りたいものです。

主と人に愛される者となることを求めましょう。

聖書が私たちに求めているのは、

- 1 神様がおられて、求める者には必ず応えてくださると信じること。
- 2 自分が神様に罪を犯していることを認めること。
- 3 イエス様が私たちの罪の身代わりとなって十字架にかかり死んでくださったこと、そして復活して、生きた救い主として私を迎えてくださることを信じること。
- 4 イエス様を信じるだけで、自分の罪が赦され、神様の子どもとして受け入れられることを信じること。

招きのことば

イエス様は、あなたの罪を赦すために、十字架におかかりになりました。あなたの罪を赦し、あなたが天国に行けるようになってほしいのです。

「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」

「見よ。わたしは戸のそとにたって叩く。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする」

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」

祈り

父なる神様。あなたの御子イエス・キリストを感謝します。

私はあなたに罪を犯して来ました。地獄に投げ込まれても当然な人間です。

しかし、イエス様は、私の罪のために十字架にかかり、私のために死んでくださいました。

あなたは、私のすべての罪を赦してくださいと言われました。感謝します。

私は、いま、イエス・キリストを私の救い主、私の神として信じ、受け入れます。

あなたは、私をあなたの子として受け入れてくださり、私を新しく生まれさせてくださることを感謝します。

今日からあなたに従っていきます。どうぞ、弱い私を導いてください。

イエス・キリストの御名によってお祈りします。

アーメン。